

CELERY

No.25
1996



CAMPUS
COMMUNICATION



中村学園大学 中村学園短期大学 / 広報

図書館利用サービスの向上を目指して

図書館長 水上茂樹



図書館長として、私は「在学生へのサービスの向上」と「図書館の情報化」を目標としています。在学生へのサービスの向上

大学の図書館ですから在学生の利用に便宜を計るのは当然です。しかし、私たちは研究者の立場で図書館の本を選択することが少なくありません。私自身も入門書や啓蒙書を図書館に置くのに躊躇することがあります。しかし、高度な専門書より啓蒙書の方が学生によく利用されています。ベストセラーを描えるつもりはありませんが、啓蒙書、評判になっている良書、文庫本なども揃える方向で検討を進めたいと思っています。

一方、読みたい本が図書館ではなく研究室にあることが多いという指摘については、図書館が仲介して在学生や他の教員の希望がある場合には一時的に利用できるようになりまし。これに関連し、各先生方には長期の海外出張などの際には、研究用図書を図書館に

還流して頂きたいと思えます。図書館で行ったアンケート調査の回答で希望が多かった図書館利用時間の更なる延長、カバン等の館内持ち込みなども対処したいと考えています。在学生の皆さんもこれに添えて図書館を今まで以上に利用して自学自習にいそしんで欲しいと思います。

図書館の情報化

図書館は利用者が自分で情報を引き出す場所です。しかし情報源は本とは限りません。最近ではインターネットなどコンピュータで得られる情報の重要性が増してきています。このような広範の情報獲得を援助するのも図書館の任務であると考えます。



語学辞書を例にあげてみましょう。これまでの辞書では、項目としての単語を探すことはできてもそれ以外の場所での単語を利用している例文や熟語を探すことはできませんでした。それがコンピュータを使えばほとんど瞬間的にすべての場所を知ることが出来ます。ある事柄が新聞のどこに記載されたかを調べるのもコンピュータを使えば容易です。新聞の縮刷版は書棚を占領しますが、CD

なら十年分でも数センチにしかならないのも大きな利点です。

検索にコンピュータは大きな威力を示します。大学院の学生は世界中で発表された研究論文を簡単に探し求めています。本学図書館ホームページを利用して九州大学や福岡大学等の図書館の図書や雑誌の検索を行っているのを見て、指導した私がむしろ驚いています。来年ははじめには本学図書館の書籍検索も学内はもろろん何処からでも可能になるでしょう。文献の検索のみでなく、辞典や年鑑などを学内のどこからでも利用できるようにしたいと考えています。

ホームページの作成
最後に、図書館ホームページの意義を述べます。

一般にホームページには二つの意義があります。一つは首相官邸などのように外部に対する情報公開で、もう一つはイントラネットと呼ばれるように、組織内における利用を主とするものです。

大学全体のホームページは前者で、図書館ホームページは後者の意義を持っています。既にこのホームページを出発点として、図書館のパソコンを利用して、学部の学生も世界中から情報を得ています。私が更に希望しているのは、このホームページを介して、まず学内における情報交換を開始し、続いて世界中にその輪を広げるようになることです。ホームページの書式はテキスト形式なので、ほとんど全てワープロやパソコンで誰でもホームページを作ることができます。積極的に参加して欲しいと思います。

図書館利用に関するアンケート調査を実施

在学生の自学自習の推進のため図書館では利用者へのサービス向上をめざし、今後の運営について様々な角度から検討を行ってまいりました。その一環として、五月二十七日から六月二十六日の間、アンケート調査を実施しました。調査の対象は本学の在学生で、日頃図書館をよく利用している学生の意見が浮き彫りにされました。

アンケート調査では遠慮なく記入してもらったため無記名形式となりましたが、自由記入欄には延べ二百件近くの項目の回答がありました。

調査の内容としては、(1) 図書館を思う存分に利用できない理由、(2) 図書館のブックディテクションシステムについての賛否、(3) 現在の一般図書等の貸出冊数および貸出期間についての意見、(4) その他(意見・要望等を自由記入)としました。

図書館ではこのアンケート調査の結果を基に、早速サービス向上のための方策を検討し、在学生の図書館利用環境の改善を進めてまいります。

(1) 学生用図書の充実
アンケートでの「思う存分に利用できない理由」の回答の約三〇%が自分求める図書資料

(蔵書)が少ないとありました。この要望に対しては、今後とも教員の推薦図書、学生の購入希望図書など一般教養図書等を積極的に購入していきます。また、学生が求める資料が古くなったり種類数が少ないことから、今後必要な図書は複本を購入して学生の皆さんの利用に役立てたいと思います。

(2) 研究用図書の一時貸出利用者(主に学生)が求める図書のうち、『研究室貸出中』で学生が自由に利用できなかった各教員の研究用図書も、今後は図書館から貸出者(教員)へ一時返却をお願いし、希望者(学生や他の教員)に貸出を行っていくようにしました。

(3) 利用時間の延長
アンケートでの「思う存分に利用できない理由」に、回答の約三五%が閉館の時刻が早いという意見でした。在学生の皆さんの図書館の利用環境を整えるためにも早速、平成八年度後期からは、第五時限終了後でも貸出・返却ができるように利用時間を更に延長するようにいたしました。

(4) ブックディテクション
アンケートでの「思う存分に利用できない理由」の回答の約七〇%が自分の荷物を持ち込んで利

用できないので不便であること、同様に約四〇%が図書館利用者専用ロッカーが空いていないことが多いことを指摘されています。大変残念なことに、現在の図書館には専用ロッカーを増設するスペースがありません。

この現状を改善するために、いま図書館ではブックディテクションシステム(BDS)の採用を検討しています。BDSは入館の際の利用資格の有無と退館の際の貸出手続きの有無を自動的に確認するシステムです。多くの大学図書館や公共図書館は、このシステムを導入しています。

この設備が導入されれば、学生の皆さんはカバンなどの手荷物を自由に持ち込んで利用することができるようになり、図書館内では館内資料と同時に自分の教科書や参考書等も、教室にいる時と同じ感覚で使用できるようになります。

今回は初の図書館利用アンケート調査を実施したことになりました。現状の貸出冊数・期間についても学生の皆さんの利用の便宜を図るためにも今後とも検討を継続する予定です。

図書館では在学生の皆さんのコミュニケーションを更に密にし、身近な存在としての図書館をめざしてサービスの向上に努めていきたいと思えます。皆さんの来館を心からお待ちしております。

図書館利用アンケート集計結果 [全学年集計]

A. あなたの図書館利用の頻度は、およそどれくらいでしょうか? ○印を記入下さい。	短大生			大学生			大短学生総計	回答比率%	
	1年	2年	計	1年	2年	3年			4年
1. ほとんど毎日	2	5	7	9	1	1	10	21	19.8
2. 1週間に2・3日	7	6	13	15	5	6	7	33	30.8
3. 必要な時のみ	21	16	37	13	13	5	4	35	48.3
4. あまり利用していない	3	0	3	0	0	0	0	3	2.0
回答者数	33	27	60	37	19	12	21	89	149

B. あなたが図書館を思う存分に利用できない理由にはどんなことがありますか ○印を記入下さい(複数に○印可)。	短大生			大学生			大短学生総計	回答比率%	
	1年	2年	計	1年	2年	3年			4年
1. 閉館の時刻がおそい	4	5	9	9	3	2	3	17	17.4
2. 閉館の時刻が早い	6	12	18	11	5	5	12	33	34.2
3. 授業の空き時間が少ない	17	12	29	14	11	6	2	33	41.6
4. 昼休みの時間が少ない	5	3	8	9	3	4	1	17	16.8
5. 第5時限目の授業を多く受講してのあまり利用できない	6	0	6	3	0	0	0	3	6.0
6. 学内のクラブなどの部活動等で放課後はあまり利用できない	3	3	6	3	1	2	3	9	10.1
7. 自己の都合(学外でアルバイト等)で放課後はあまり利用できない	10	8	18	8	6	4	3	21	26.2
8. 図書館利用者専用ロッカーが空いていないことが多い	10	12	22	17	10	4	5	36	38.9
9. 自分のカバン等の荷物を持ち込んで利用できないので不便である	20	24	44	26	15	10	9	60	69.8
10. 図書館の利用方法がよくわからない	1	1	2	1	0	0	0	1	3.0
11. 自分の求める図書資料をさがすことができない	6	10	16	9	3	4	5	21	24.8
12. 図書資料(蔵書)が少ない	2	9	11	11	6	8	9	34	45.0

C. 図書館のブックディテクションシステム(BDS)についてどう思いますか?	短大生			大学生			大短学生総計	回答比率%	
	1年	2年	計	1年	2年	3年			4年
1. ゲートを設置することについては抵抗はない。ぜひ設置を検討してほしい	23	19	42	28	12	5	13	58	67.1
2. ゲートには心理的に抵抗を感じる。現状のままを希望する	3	1	4	0	0	2	1	3	4.7
3. わからない。他の公共図書館を訪問しBDSを見た上で判断したい	2	3	5	3	4	2	1	10	10.1
4. わからない。BDSについて更に詳しい説明を聴いた上で判断したい	4	4	8	4	3	3	5	15	15.4
わからない(未記入を含む)	1	0	1	2	0	0	1	3	2.7

D. 一般図書および製本雑誌の貸出冊数についてどう思いますか? 現在、大学・短大生ともに3冊の制限があります。(大学院生は10冊)	短大生			大学生			大短学生総計	回答比率%		
	1年	2年	計	1年	2年	3年			4年	計
1. 適切である [現行]	3	23	13	36	21	11	6	9	47	83
2. 不満()冊にしてほしい	4冊	4	5	9	1	2	3	3	2.0	
	5冊	2	8	10	5	8	3	9	25	23.5
	6~9冊								0	
10冊				1	1		2	2	1.3	
3. わからない(未記入を含む)	8	6	14	10	1	1	12	26	17.5	

E. 同じく、1冊あたりの貸出期間についてどう思いますか? 現在、通常期は8日(1週間)の制限があります。但し、夏・冬・春の長期休業期や学外実習の際は期間の延長を行っています。なお、大学生の卒業論文作成には30日に拡大しています。	短大生			大学生			大短学生総計	回答比率%		
	1年	2年	計	1年	2年	3年			4年	計
1. 適切である [現行]	8	20	12	32	23	9	7	8	47	79
2. 不満()日にしてほしい	10日	1	2	3	3	2	2	7	10	6.7
	11~13日								0	0
	14~16日	5	10	15	7	9	2	11	29	44
	17日以上								0	0
3. わからない(未記入を含む)	7	3	10	4	1	1	6	16	10.8	

「食と健康」をテーマに

アジア栄養科学 ワークショップを開催



第五回アジア栄養科学ワークショップ(主催 中村学園大学栄養科学研究所、協賛 日本コカコーラ株式会社)が、九月二十八日に西一号館十階の大講義室を会場に開催された。

今回は、「食と健康」をテーマに、これらの分野の研究をリードしている四氏による講演が行われた。

して熱心に聴講していた。講演ではまず正山征洋氏(九州大学薬学部教授)が「アジアの薬草」というテーマで、美しいカラー・スライドにて代表例を示しつつ薬草の分類について概説、アジア地域における乱獲の問題や新たに浮上ってきた薬草の重要性等についても講演された。

続いて、難波恒雄氏(富山医科大学薬学部教授)が「食生活を考える」というテーマで、漢方における「薬と食」のとりえ方や薬膳の基本と食文化について講演があった。

さらに、山崎幹夫氏(千葉大学薬学部教授)は「食へのものの中の毒」と題して、毒の正体を文化的視点から論述し、多様性を増す食生活の中にはいり込んで来る新たな毒について、どのように認識し、被害を排除すべきかを論述された。

最後に、内山充氏(日本薬剤師研修センター理事長)が「食品の安全性評価」という演題で、食品の既存有害因子と新たに加わる因



△吉村教授を座長に活発な質疑応答が行われた。

子についてや、食品の安全とはどういふことか、安全性評価の手順や評価における責任と役目について、講演された。

四氏による各講演のあとには、本学食物栄養学科・吉村英敏教授を座長に活発な質疑応答が行われた。

「食」と「健康」とは密接な関係にあり、今回のワークショップでは、その理解を深め、重要性を認識するうえで、有意義なものになったと思われる。

上海中医薬大学との研究員相互派遣

—本学からは三成助教授を派遣—

平成七年十一月に締結された、上海中医薬大学と本学との学術交流協定に基づき、研究員の相互派遣が開始された。

本学からは三成由美助教授が平成八年九月から一年間上海中医薬大学へ中医、中薬、薬膳についての研究を行うために派遣された。また、上海中医薬大学からは、王奕氏が九月十七日來日。一年間本学で研究を行う。王奕氏は上海中医薬大学で、組織発生学を専門としており、本学では、電子顕微鏡を使った研究をしたいと希望されている。

なお、海外の大学と締結された学術協定に基づき、研究員の相互派遣が行われるのは、本学では、今回が初めてとなる。



王 奕 氏 三成助教授

乳幼児期から児童期の 子育てを考える

—公開講座盛況の内に終了—

平成8年度 中村学園大学 公開講座プログラム

健康・人間科学の視座から
—乳幼児期～児童期の子育てを考える—

回	月/日	時間帯	題目・講師
1	9/7 (土)	13:00~13:15	開講式・オリエンテーション 学長 山元 寅男
		13:15~16:20	「子どもの身体づくり」: 栄養学・医学の立場から 座長 教授 廣畑 富雄(公衆衛生学) 教授 藤田 守(解剖学) 教授 城田 知子(栄養指導) 福岡市立こども病院・感染症センター 院長 本田 恵(小児科学)
2	9/21 (土)	13:00~16:00	シンポジウム 「子育ては何をめざすか」: 教育学の立場から 座長 教授 植藤 典志夫(比較教育学) 助教授 青木 英実(教育哲学) 助教授 野田 耕二郎(学校教育) 助教授 中野 隆二(美術教育)
		13:00~16:00	シンポジウム 「自律を育む子育て」: 心理学の立場から 座長 教授 石田 梅男(教育心理学) 教授 山下 功(発達心理学) 助教授 安部 恒久(臨床心理学) 講師 笠原 正洋(発達心理学)
3	10/5 (土)	13:00~16:00	シンポジウム 「自律を育む子育て」: 心理学の立場から 座長 教授 石田 梅男(教育心理学) 教授 山下 功(発達心理学) 助教授 安部 恒久(臨床心理学) 講師 笠原 正洋(発達心理学)
		16:00~16:15	閉講式・修了証書授与 学長 山元 寅男

【場所】中村学園大学・短期大学 西一号館10階 大講義室

平成八年度公開講座が、九月七日、二十一日、十月五日の三回にわたって開催された。

この公開講座は、本年度で二十三回を数えるが、今回から、「健康・人間科学の視座から」を主題とする、新規の公開講座のプログラムがスタートした。

今回は、その一回目として、心身ともに健康な人間づくりの源初期で、人格形成の原型期である幼児期、児童期の子育てにスポットライトをあてて実施され、講義と

シンポジウムを併用して三つの側面から、子育てについて、考察された。

今回は、過去最高の二百三名の受講者があり、保母・教員・栄養士といった有職者から、主婦・学生といった幅広い層の受講者があり、熱心に受講される姿が印象的であった。

また、最終日には、本学の学長から、受講者にたいして、修了証書が授与された。

教育ワークショップを実施

—メインテーマは「本学における英語教育について」—

今年で、三回目になる教育ワークショップが、九月九日に、本学教職員の参加のもとに行われた。

今回は、「本学における英語教育について」というメインテーマで、三人の教授から、発表があった。

まず大関敏明教授が、「英語教育の歴史と実情」というテーマで江戸時代から今日までの、英語教育の変遷について発表された。

続いて鶴田八郎助教授は、「英語学習に望むこと」というテーマで学生・生徒に対するアンケート調査から、英語学習者の学習動機・学習観と言った面から発表された。

締めくくりとして山根一文助教授からは、「中村学園大学・短期大学の英語教育の実情」というテーマで、英語教育に関する学生の意識調査からの報告と、英語基礎力診断テストによる本学学生の英語力の分析及び授業における学生の実態について発表された。

続いておこなわれた、総合討論では、教養主義教育と実用主義教育の問題、日本の英語教育の問題点、本学学生の英語教育の問題点等、英語教育についての意見交換が活発に行われた。

最後に、島内教務部長から、学生による授業評価委員会からの報告ということで、授業に関する学生の意見調査の中間報告がされ、ワークショップを終了した。

子どもの心 (22)

児童学科・幼児教育科 教授 石田 梅男



自律の光芒

—研究ノートより—

児童の不登校やいじめ、それに起因する自殺など、誠に憂慮すべき教育事象が相つづ現在、筆者は近年二つの系列の心理学的研究を進めている。一つは、家庭における児童の余暇空間における親の養育行動の効果に関する研究であり、いまひとつは、小学校における児童の内発的学習意欲の効果に関する研究である。

小学校5・6学年児童の質問紙への回答を解析してみると、家族と過ごす余暇は、児童の自己概念の予測因であるにとどまらず、親の自律支持・愛着養育行動が、児童のなかに、家族愛・自己愛を媒介して、自律と豊かな共感性を育てていることが判然とする。他方、小学校教育の調査研究からわかった最大の知見は、広義の学習活動そのものへの興味以外に何ら明白な外的報酬(成績や賞賛など)の獲得を目的としない、いわゆる内発的学習意欲が、人々や社会・自然に対する共感や好意・正義の最良の予測因であるということであった。

この2系列の研究を通じていえることは、他者への思いやりや慈愛、正義など最高の倫理的品性は、生後11~12年間における自律の関数であるということである。外発的学習や教育の所産は恐るべき他律である。

貴重な授業時間をさいて協力を惜しまれない研究筋力校の御好意に深甚の謝意と敬意を払いつつ、人間教育の根幹に更なる光をあてていきたいと思う次第である。

'96 キャンパス公開

—1,300名の受験生と父母が参加—



△相談コーナーで熱心に説明を聞く受験生

(昨年を上回る盛況ぶり)
 受験生とその父母を対象とした
 キャンパス公開が、八月三日に開
 催された。天候にも恵まれた、週
 末の土曜日ということもあって、
 開始時間の一時間前から受付を待
 つ列がで始め、この日参加した
 受験生は約千名、父母を加える
 と約千三百名という盛況ぶりであ
 った。中には、貸切りバスを利用
 し、三十名余りの団体で参加した
 高校もあった。

「食品衛生学とは」(古賀信幸
 助教授) 午後実施
 児童学科・幼児教育科
 「心理学 錯視」(岡坂提示によ
 る体験学習) (山下功教授)
 家政科
 「Business Skills and Manners
 仕事をするうえで技能・技術と
 マナー」(浅岡柚美講師) 午前
 実施
 「情報処理実習パソコン操作
 入門」(梶田鈴子助教授) 午後
 実施

「キャンパスでの
 再開を祈って」

キャンパス公開では、参加者に
 アンケートをお願いしているが、
 その中には、「実際に施設・設備
 を見学したり、大学の先生方との
 個別相談で授業
 内容や就職状況
 について詳しく
 知ることができ
 絶対この大学に
 入学するぞと強
 く決心しました」
 という感想もあ
 った。このキャン
 パス公開に参
 加した受験生の
 皆さんと来春は
 本学の学生とし
 て再会できるこ
 とを願っている。

情報処理講習会を開催

—インターネットにも アクセス—



今年四月から、ハードウェアの
 一新を図った情報処理センターで
 平成八年度情報処理センター夏期
 講習会が九月三日から十一日まで
 開催された。

内容は左表のとおりで、特に教
 職免許取得希望の大学三・四年次
 生を対象にした教材作成入門は、
 昨年に続き今年も行われ、教員を
 目指す者にとってもコンピュータ
 の利用は不可欠となっている。

また今回は、インターネットや
 電子メールの紹介を兼ねた入門
 コースも行われ、国内外の様々な
 情報と瞬時の内にアクセスできる

インターネットの利用価値は、今
 後ますます高まると思われる。
 参加した受講者は、慣れない手
 つきながらも熱心に実習を行って
 いた。

講習会概要

開催日	コース名	内 容
9月2日(月) 3日(火)	教材作成入門	パソコンによる学 習教材作成の方法 を専用ソフトを利 用して実習
9月4日(水)	インターネッ ト入門	Netscape による インターネット利 用法
9月5日(木)	MS-WORD 入門	文書作成、更新、 印刷等を行うため に必要な知識習得 と操作法実習
9月6日(金)	MS-EXCEL 入門	表計算ソフトを利 用したデータ処理 の入門的な操作法
9月10日(火) 11日(水)	大型コンピュ ータ入門	大型コンピュータ による統計処理に 必要な知識習得や 操作法の実習

平成8年度

科学研究費補助対象研究が決定

—14件の研究に対して交付—

▼… 文部省から交付される平成八年度の科学研究費補助金が、次のとおり決定した。

▼… 重点領域研究(一)
 古相 正美講師(代表)
 「研究課題名」近世期文人に関する伝記および人的ネットワークの総合的研究

▼… マルチメディアによる伝記データの整備と検索システムの構築
 「補助金交付額」百七十万円
 基礎研究(B)(2)
 中村 元臣教授(代表)
 伊藤 和枝教授(分担)
 今井 克己助教授(分担)
 増田 隆講師(分担)
 阿部志鷹子講師(分担)
 「研究課題名」肥満の長期減量効果を維持する因子

▼… 特に満腹液性因子と中枢機能の役割
 「補助金交付額」百八十万円
 基礎研究(C)(2)
 吉村 英敏教授(代表)

▼… 文部省から交付される平成八年度の科学研究費補助金が、次のとおり決定した。

▼… 重点領域研究(一)
 古相 正美講師(代表)
 「研究課題名」近世期文人に関する伝記および人的ネットワークの総合的研究

▼… マルチメディアによる伝記データの整備と検索システムの構築
 「補助金交付額」百七十万円
 基礎研究(B)(2)
 中村 元臣教授(代表)
 伊藤 和枝教授(分担)
 今井 克己助教授(分担)
 増田 隆講師(分担)
 阿部志鷹子講師(分担)
 「研究課題名」肥満の長期減量効果を維持する因子

▼… 特に満腹液性因子と中枢機能の役割
 「補助金交付額」百八十万円
 基礎研究(C)(2)
 吉村 英敏教授(代表)

▼… 文部省から交付される平成八年度の科学研究費補助金が、次のとおり決定した。

▼… 重点領域研究(一)
 古相 正美講師(代表)
 「研究課題名」近世期文人に関する伝記および人的ネットワークの総合的研究

▼… マルチメディアによる伝記データの整備と検索システムの構築
 「補助金交付額」百七十万円
 基礎研究(B)(2)
 中村 元臣教授(代表)
 伊藤 和枝教授(分担)
 今井 克己助教授(分担)
 増田 隆講師(分担)
 阿部志鷹子講師(分担)
 「研究課題名」肥満の長期減量効果を維持する因子

▼… 特に満腹液性因子と中枢機能の役割
 「補助金交付額」百八十万円
 基礎研究(C)(2)
 吉村 英敏教授(代表)

家族慣行の持続と変容に関する研究

「補助金交付額」五十万円
 古相 正美講師
 「研究課題名」多分野に渡る業績を残す近世期文人、多田義俊に関する伝記および業績の研究

近世文化研究への一階梯として
 「補助金交付額」八十万円
 青峰 正格教授(代表)
 大和 孝子助手(分担)
 太田 千穂助手(分担)

「研究課題名」遺伝性糖尿病マウスにおけるマグネシウム負荷食による子宮筋異常収縮の改善効果の検討
 「補助金交付額」百六十万円
 伊藤 和枝教授(代表)
 中村 元臣教授(分担)

「研究課題名」ヒトの血圧と脂質代謝に及ぼす経口的KとMg負荷の効果の差異とその機序
 「補助金交付額」百二十万円
 今井 克己助教授

「研究課題名」食事摂取時間帯の差による食事性産熱(DIT)の変化について
 「補助金交付額」百十万円
 松隈 美紀助手(代表)
 藤田 守教授(分担)
 馬場 良子助手(分担)

「研究課題名」食物アレルギー発症機序に関する免疫組織化学的超微形態学的研究
 「補助金交付額」七十万円
 久富さよ子助教授(代表)

稲田 聡美助手(分担)

「研究課題名」地域における伝統的音楽文化の理解に関する研究
 保育科学生の実践を通して
 「補助金交付額」八十万円
 奨励研究(A)
 太田 千穂助手
 「研究課題名」激辛食は糖尿病を悪化するか
 糖尿病マウス子宮筋における検討
 「補助金交付額」百万円
 竹嶋美夏子助手
 「研究課題名」高密度リポタンパク質レセプターの発現を高進する食事因子の解明
 「補助金交付額」百万円
 研究分担者の掲載は、学内の研究者のみ掲載

なお、平成七年度の交付分については、当誌第二十二号(平成七年十月三十日発行)にて七件の決定をお知らせしたが、それ以降の一件が平成七年十二月に追加決定された。

一般研究(B)
 中村 元臣教授(代表)
 伊藤 和枝教授(分担)
 今井 克己助教授(分担)
 増田 隆講師(分担)
 阿部志鷹子講師(分担)
 「研究課題名」肥満の長期減量効果を維持する因子
 特に満腹液性因子と中枢機能の役割
 「補助金交付額」二百万円

'96サマー レポート

(パラリンピック)

梶原紀子さん パラリンピック世界新で 金メダル!

八月に米国アトランタで開催されたパラリンピックで、中村学園短期大学・食物栄養科を昭和六十三年に卒業した梶原紀子さんが、水泳の女子五十歳平泳ぎ（脳性麻痺車いす使用者のクラス）の決勝で五十四秒二一の世界新記録を出し優勝した。

「世界新記録で優勝したと分かったのは、泳ぎ終わった直後に掲示板を見て。その時は、ほっとしたというのが正直な気持ちで、実感がありませんでしたが、表彰台に上がり国旗が掲げられた時は、さすがにジーンとききました」という。ちなみに、自己ベストを二秒以上も更新した力泳だった。また、五十歳背泳ぎと百歳自由形でも入賞している。

梶原さんは、二十歳の時に持病の喘息の治療のため、医師から勧められたのがきっかけで水泳を始めた。そして、平成二年から本格的に競技として取り組み始めた。平成六年には中国で開かれた「極東南太平洋身体障害者競技会



△3位の選手と喜びをわかちあう梶原さん(左)

「夢が叶って、アトランタに行けて、入賞しなかった五十歳自由形も含めて出場した四種目全部に自己ベストが出せたので、悔いのない大会でした。いろんな人に導いてもらったおかげの金メダルです。かかわってくれたすべての人に感謝の気持ちでいっぱいです」と感想を述べる梶原さん。

四年後シドニーを目指すかどうかは、まだ決めていないが、今後の目標としては、水泳の楽しさを少しでも伝えて行きたいそうだ。なお、学校法人中村学園は、梶原さんを九月三十日に理事長表彰した。

(フェスピック)で、百歳平泳ぎなど三種目の金メダルを獲得。昨年十一月、アトランタ・パラリンピック予選に優勝し、代表選手に選ばれた。代表選手に選ばれた時は思わず中村ハル先生の「努力の上に花が咲く」という言葉が浮かんだそうだ。

(語学研修)

「海外研修」で得たこと

大学 児童教育学専攻 四年

田崎雅美

私にとって、海外に出るといことは、初めてのことであり、最大の出来事でもありました。大学四年間の思い出として、また、今後の自分に何かプラスになれば、という思いを胸に八月四日福岡空港を出発しました。

の経験は、本当に一つひとつが新鮮で、発見の毎日でした。その中でも最も大きな収穫は、自分から積極的に前に進まなければ何も始まらないということを実感したことです。

メルボルンに着くとホストファミリーが温かく迎えてくれ、三週間の生活が始まりました。午前中はメルボルン大学での授業、午後は観光の授業、午後は観光

いままで積極的になれなかった自分が少しでも変わるきっかけとなったこの研修に参加できて本当によかったと思っています。

安も消え、楽しい毎日。車を過すことができませんでした。電車に乗ること、買物をする



△シドニーで友人と(左側が田崎さん)

栄養士の責任の重大さを痛感

—小児糖尿病サマーキャンプに参加して—

大学 管理栄養士専攻 2年

西田美由紀

(ボランティア)

私は八月十七日から二十四日までの一週間、夜須高原で行われた小児糖尿病サマーキャンプに参加しました。

このキャンプは、共同生活の中で、糖尿病の子供たちの自立性を育てるために毎年行われています。私は、栄養士として毎日の食事作りを担当したのですが、そのために五月から献立作成や勉強会を重ねてきました。

キャンプの間は、二回の間食を含む一日五回の食事を作りしました。毎回約百食の食事を作ることは、今まで大量調理を経験したことのない私にとって戸惑うことばかりで、精神的にも体力的にも想像以上に大変なものでした。しかし、子供たちの「おいしかった」という一言に励まされて頑張ることができたような気がします。



△小児糖尿病サマーキャンプにて(最前列右側が西田さん)

目指す私にとって、多くのことを得る機会となりました。特に低血糖で倒れた子供を見た時には、栄養士としての責任の重大さを強く感じました。

(サークル)

ソフトテニス部 九州大会で準優勝



第四十六回九州地区大学体育大会の夏季大会が、七月八日から九日まで長崎地区を主会場に開催され、本学ソフトテニス部は、団体戦で準優勝した。

勝ち進み決勝に臨んだ。決勝では、福岡大学に惜しくも敗れたが、部員一丸となって最後の一球までよく走り、九州ナンバーワンの福岡大学に善戦した。

元気なサークル (17)

「気剣体 の一致」 を目指して



私達なぎなた部は、部員数七名と少人数ではありますが、とても元気なサークルです。
なぎなたには、「試合競技」と「演技競技」があります。「気剣体の一致」といって、気力、なごなた、体勢が一致してはじめて有効打突となります。この有効打突がなぎなたの魅力であり、これは、努力することによって可能になります。
毎週火曜日の稽古の時には、中村学園女子高等学校の角先生、田中先生に指導していただいています。その甲斐あって、第二十四回福岡県学生なぎなた選手権大会で団体試合、演技競技において優勝することができました。今は西日本大会に向けて稽古に励んでいます。なぎなたに興味のある人は、是非見学に来てください。お待ちしております。

なぎなた部

指導者 角 薫 先生
顧問 田中 美恵 先生
顧問 山根 一文 助教授
活動日 毎週火曜日
部員 7名

平成7年度決算について

学校法人中村学園の平成7年度決算は、去る五月二十八日の評議員会及び理事会において承認されました。

学校法人の会計は、私立学校振興助成法が定める学校法人会計基準に基づいて、資金収支計算書、消費収支計算書の二つの方式からなっております。資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応する、すべての資金の収入、支出を明らかにするものです。一方消費収支計算書は民間企業の損益計算書に相当するもので、財政の健全化を測定する一つの尺度となります。

平成7年度の資金収支計算書、消費収支計算書の主なものは次のとおりです。

- 一、資金収支計算書
 - 大学院・大学・短期大学関係
 - 収入の部では学生納付金の入金、授業料等の改定をしました。補助金収入のうち、特別補助金の増額や手数料収入、資金運用収入の増で当年度の収入合計は予算に対し一億七、三〇〇万円の増額となりました。
 - 支出の部では教育研究経費の主なものは
 - マレーシア国立大学との共同研究
 - 地域の方々へ肥満のクリニックを中心とした健康教育を行う健康増進センター関係

○大学改革の一つとして、「自己点検・自己評価」の結果を「教育と研究」として冊子を作成しました。

管理経費の主なものは
○各高等学校へシラバスの送付や、本年は、大学開学三〇周年記念行事として三〇周年誌の刊行、キャンペーンソングの製作を行いました。

施設設備関係支出では
○隣接地購入費 二億六〇〇万円
○通用門整備工事費 一、二〇〇万円
その他研究室の冷暖房や視聴覚の設備等、教育・環境の充実に努めました。

支出の部においては
○教員二名の海外研修旅費
○生徒募集のビデオ製作費
施設設備関係では
○南端隣地の取得費 一億八六〇万円
○年次計画のトイレ改修費 五、二三〇万円
その他保健室の冷暖房工事等の施設の充実をはかりました。

平成7年度消費収支計算書

平成7年4月1日から平成8年3月31日まで

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	4,444,480,000	4,443,865,150	614,850
手数料収入	153,550,000	175,368,980	△ 21,818,980
寄付金収入	18,890,000	26,911,177	△ 8,021,177
寄附金収入	(8,810,000)	(12,963,222)	(△) 4,153,222
補助金収入	1,081,210,000	1,214,807,392	△ 133,597,392
資産運用収入	45,810,000	74,423,208	△ 28,613,208
事業収入	187,900,000	191,119,258	△ 3,219,258
雑収入	131,260,000	134,119,717	△ 2,859,717
借入金等収入	200,000,000	200,000,000	0
前受金収入	1,153,940,000	1,241,883,500	△ 87,943,500
その他の収入	57,620,000	57,829,013	△ 209,013
資金収入調整勘定	△ 1,413,880,000	△ 1,427,392,414	△ 13,512,414
前年度繰越支支資金	2,886,470,000	2,886,473,327	△ 3,327
収入の部合計	8,938,440,000	9,206,445,086	△ 268,005,086

平成7年度資金収支計算書

平成7年4月1日から平成8年3月31日まで

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	4,444,480,000	4,443,865,150	614,850
手数料収入	153,550,000	175,368,980	△ 21,818,980
寄付金収入	10,080,000	13,947,955	△ 3,867,955
補助金収入	1,081,210,000	1,214,807,392	△ 133,597,392
資産運用収入	45,810,000	74,423,208	△ 28,613,208
事業収入	187,900,000	191,119,258	△ 3,219,258
雑収入	131,260,000	134,119,717	△ 2,859,717
借入金等収入	200,000,000	200,000,000	0
前受金収入	1,153,940,000	1,241,883,500	△ 87,943,500
その他の収入	57,620,000	57,829,013	△ 209,013
資金収入調整勘定	△ 1,413,880,000	△ 1,427,392,414	△ 13,512,414
前年度繰越支支資金	2,886,470,000	2,886,473,327	△ 3,327
収入の部合計	8,938,440,000	9,206,445,086	△ 268,005,086

支出の部 (単位 円)

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	3,244,140,000	3,212,728,755	31,411,245
教育研究経費支出	732,490,000	696,272,461	36,217,539
管理経費支出	219,950,000	210,275,744	9,674,256
借入金等利息支出	63,840,000	62,897,030	942,970
借入金等返済支出	212,420,000	212,409,256	10,744
施設関係支出	459,270,000	432,827,390	26,442,610
設備関係支出	120,010,000	119,402,753	607,247
資産運用支出	27,430,000	74,599,594	△ 47,169,594
その他の支出	103,860,000	110,813,937	△ 6,953,937
(予備費)	(1,100,000)	—	13,800,000
支出の部合計	8,938,440,000	9,206,445,086	△ 268,005,086

消費支出の部 (単位 円)

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	3,281,330,000	3,249,294,729	32,035,271
(退職金給与引当金繰入額)	(104,440,000)	(101,242,474)	(3,197,526)
教育研究経費	1,071,020,000	1,034,768,791	36,251,209
(減価償却額)	(338,530,000)	(338,496,330)	(33,670)
管理経費	282,820,000	272,935,180	9,884,820
(減価償却額)	(62,870,000)	(62,659,436)	(210,564)
借入金等利息	63,840,000	62,897,030	942,970
資産処分差額	21,800,000	21,774,753	25,247
(予備費)	(1,520,000)	—	13,380,000
消費支出の部合計	4,734,190,000	4,641,670,483	92,519,517
当年度消費収入超過額	767,970,000	1,085,123,757	—
前年度繰越消費支出超過額	2,226,140,000	2,226,142,515	—
翌年度繰越消費支出超過額	1,458,170,000	1,141,018,758	—

貸借対照表

平成8年3月31日

科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減 (△)
資産の部			
固定資産	19,046,896,651	18,921,774,430	125,122,221
有形固定資産	17,837,754,342	17,695,491,496	142,262,846
土地	7,261,536,574	6,904,641,684	356,894,890
建物	8,783,018,486	9,021,733,791	△ 238,715,305
構築物	368,672,046	388,163,856	△ 19,491,810
教育研究用機器備品	441,958,950	445,766,227	△ 3,807,277
その他の機器備品	56,558,534	61,774,406	△ 5,215,872
図書	878,176,863	826,507,372	51,669,491
車	4,222,889	8,794,160	△ 4,571,271
建設仮勘定	43,610,000	38,110,000	5,500,000
その他の固定資産	1,209,142,309	1,226,282,934	△ 17,140,625
電話加入権	2,405,317	2,405,317	0
有価証券	1,006,591,252	1,051,028,360	△ 44,437,108
有収事業元入金	20,000,000	20,000,000	0
出立金	27,223,640	25,628,140	1,595,500
長期積立金	92,100	92,100	0
長期貸付金	0	117,117	△ 117,117
第3号基本引当資産	152,830,000	127,104,000	25,726,000
流動資産	4,824,648,865	3,344,133,384	1,480,515,481
現金	4,223,109,042	2,886,473,327	1,336,635,715
預金	191,623,102	100,000,000	91,623,102
有価証券	300,000,000	300,000,000	0
未収金	106,415,914	56,419,080	49,996,834
未払金	3,500,807	1,240,977	2,259,830
資産の部合計	23,871,545,516	22,265,907,814	1,605,637,702

科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減 (△)
負債の部			
固定負債	2,580,662,320	2,610,345,346	△ 29,683,026
長期借入金	1,414,950,000	1,481,199,000	△ 66,249,000
退職給付引当金	1,165,712,320	1,129,146,346	36,565,974
流動負債	1,823,307,090	1,806,930,761	16,376,329
短期借入金	266,249,000	212,409,256	53,839,744
未払金	148,890,876	103,821,786	45,069,090
未前払金	1,241,883,500	1,320,976,500	△ 79,093,000
預り金	160,606,320	165,338,641	△ 4,732,321
受取金	5,677,394	4,384,578	1,292,816
負債の部合計	4,403,969,410	4,417,276,107	△ 13,306,697

科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減 (△)
基本金の部			
第1号基本金	20,138,764,864	19,630,670,222	508,094,642
第3号基本金	152,830,000	127,104,000	25,726,000
第4号基本金	317,000,000	317,000,000	0
基本金の部合計	20,608,594,864	20,074,774,222	533,820,642

科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減 (△)
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費支出超過額	1,141,018,758	2,226,142,515	△ 1,085,123,757
消費収支差額の部合計	△ 1,141,018,758	△ 2,226,142,515	1,085,123,757

科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減 (△)
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	23,871,545,516	22,265,907,814	1,605,637,702

注記 1. 減価償却額の累計額及び額は次のとおりである。
 土地 1,529,346,048円
 建物 382,397,494円
 有価証券 100,000,000円
 計 2,011,743,542円

2. 担保に供されている資産の種類及び額は次のとおりである。

3. 退職給付引当金の算出方法は、次のとおりである。
 法人本部・大学・短大は期末要支給額 1,074,634,000円から私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入れ調整額を加減した金額を計上している。高等学校以下は期末要支給額 847,947,000円から私立退職金財団より交付金相当額を控除した金額を計上している。

4. 翌会計年度以後の会計年度において基本金への組入れを行うことになる金額 1,682,398,950円

支出の部においてはパソコン教室への改造及びパソコンシステム等に三、九四〇万円その他中学校及び理科教室の冷暖房工事等の施設の整備を行いました。

以上が各学校の主な事業ですが学園全体としての収入の部は、手

数料収入、補助金収入、前受金収入等の増により予算に対し二億六、八〇〇万円の増加となりました。

支出の部では人件費、教育研究経費、施設関係費等で予算残となりました。収入の部から支出の部を差引いた次年度繰越支支資金は

予算に対し三億四、〇〇〇万円の増額となりました。

二、消費収支計算書
学園全体としては、前年度に對し帰属収入合計は三億六、九〇〇万円(六・三%)増加し、消費支出の合計は一億五、三〇〇万円(三・四%)の増となりました。

基本金組入額は、自己資金で取得した施設設備関係支出及び借入金返済支出等の合計で五億三、三〇〇万円となり、消費収入の部から消費支出の部を差引いた当年度の消費収入超過額は一〇億八、五一一〇万円となりました。

なお、翌年度繰越消費支出超過額は、前年度繰越消費支出超過額が二十二億二、六〇〇万円ありま

すので、それを引き一億四、一〇〇万円となり年々改善されております。

三、貸借対照表について
資産の部では、土地、現金・預金等の増加により資産総額は二三八億七、一〇〇万円となり前年度に對し一六億五、六〇〇万円(七・二%)の増加となりました。負債の部では前受金等の減により四億三、九〇〇万円となり、前年度に對し一、三三〇万円(〇・三%)の減となりました。資産総額から負債総額を差引いた正味財産は一九億四、七〇〇万円、前年度より一六億一、九〇〇万円(九・一%)増加しました。

以上が平成七年度における(収益事業会計を除く)本学園の決算概要ですが、今後とも財政の基盤を強化するため自助努力を続けたいと考えております。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

健康生活の ススめ(23)

食物栄養学科・食物栄養科
教授 太田 英明



高度経済成長期の働き蜂の日本人にとって、喫茶店で香り高い暖かいコーヒーを啜飲するのが憩いの一つであった。時代が移り飽食の時代と言われるようになった十数年前から日本人の間では缶コーヒーが大流行し、コーヒーの消費も増えだ、コーヒーの味は缶コーヒーで代表されるという食品研究者には寂しい時代があった。昨今では市販缶コーヒーの多様化も進み自動販売機で各種のホットコーヒーが容易に楽しめるようになった。

私がお世話になった大学の研究室がコーヒーの香気成分を研究している事もあり、いろんな種類のコーヒーを試飲できた。その時の飲み過ぎから、コーヒーは喫飲量を少し香りや味を楽しむ嗜好飲料と心がけている。

コーヒーは健康には悪いのではないかと話をする。確かに最も多いアルカロイド成分はカフェイン、次にクロロゲン酸、トリゴネリンだが、カフェインが圧倒的に多い。これは紅茶、緑茶にも多量に含まれる。ただ、コーヒーには、化学的に解明されていない褐変色素メラノイジンが含まれるのが不安を醸し出しているように思う。今のところ、通常の喫飲では不健康との因果関係は認められていないという。手間暇がかかるが、フィルターで出したものは、脂肪分がフィルターに吸着し健康上支障を与えない事が確認されている。嗜好飲料である以上、一日五杯以上の飲み過ぎは避けたい。

最近のベストセラ「脳内革命」(春山茂雄著)によると、短絡的だが人によって一本のタバコが、善玉脳内ホルモン(仮称) エンドルフィンの産出を刺激するという。私の場合は、一杯の香り高いコーヒーがこのホルモンの分泌を促進しているのだと勝手に解釈して、コーヒーを楽しんでいる。

平成八年度 サークル加入 状況について

— 学生課 —

近年、きつい、きびしい、時間的制約を受ける等の理由で、サークルへの加入者が減少傾向にあることが指摘されています。この状況を打破し、加入率を高めるため学友自治会及び各サークルは、サークル紹介誌の発行やポスター掲示等により積極的に勧誘活動を実施しました。

その結果、六月現在の加入状況は別表のとおりとなっています。平成七年度に比べ、総合的には二%の減少となりましたが、これは、大学在学生の加入減によるもので新入生の加入状況は昨年度と同じ四一%でした。しかし、サークルごとの加入状況を見ると新入生の加入者がゼロというサークルが目立って来ています。これが冒頭に記した理由によるものか、勧誘活動の不足によるものか見極める必要があります。

今後は、更に積極的なPRと勧誘活動を展開するとともに、魅力あるサークルづくりにより多くの学生が参加するよう働きかけて行きたいと考えています。

サークル加入状況

No	区分	サークル名	部員数	学 年							
				1年	2年	3年	4年	1年	2年		
1	合同	ソフトテニス部	10	1	0	0	2	3	4		
2	"	テニス部	22	3	5	2	6	2	4		
3	"	剣道部	16	2	7	0	0	6	1		
4	"	卓球部	26	2	21	2	0	0	1		
5	"	弓道部	14	2	4	2	0	2	4		
6	"	なぎなた部	7	0	1	1	1	3	1		
7	"	軟式野球部	18	1	5	4	5	1	2		
8	"	NDA	20	5	3	3	1	1	7		
9	"	合気道部	14	2	3	2	1	4	2		
10	"	バスケット同好会	53	11	13	9	0	5	15		
11	"	バドミントン同好会	45	13	9	5	0	10	8		
12	"	水泳同好会	104	25	24	8	0	27	20		
13	"	ソフトボール同好会	10	1	7	0	0	1	1		
14	"	陸上愛好会	25	4	12	0	0	7	2		
15	"	サッカー愛好会	21	1	9	6	0	3	2		
16	"	ラクロス愛好会	12	0	7	1	1	0	3		
17	"	ラグビー愛好会	26	7	1	5	5	2	6		
18	大学	ワンダーフォーゲル部	28	4	4	8	6	6	0		
19	"	女子バレー部	28	14	11	3	0	—	—		
20	"	男子バレー部	25	3	10	4	7	—	1		
21	短大	短大バレー部	18	—	—	—	—	9	9		
計				542	101	156	65	35	92	93	
1	合同	マンドリンクラブ	8	0	3	4	0	0	1		
2	"	書道部	12	2	2	1	1	2	4		
3	"	児童文化部	34	0	10	4	1	4	15		
計				435	54	73	79	52	97	80	

新入生・在学生別加入状況

学 年	新入生			在 学 生			合 計			
	在籍数	加入数	%	在籍数	加入数	%	在籍数	加入数	%	
大 学	7年度	403	257	64	1036	628	61	1439	885	62
	8年度	332	236	71	1086	574	53	1418	810	57
短 大	7年度	938	291	31	894	256	29	1832	547	30
	8年度	933	288	31	940	269	29	1873	557	30
計	7年度	1341	548	41	1930	884	46	3271	1432	44
	8年度	1265	524	41	2026	843	42	3291	1367	42

管理栄養士国家試験 管理栄養士専攻合格率100%

五月二十六日に実施された第十回管理栄養士国家試験の合格者が六月十七日に発表された。今回の受験者総数は一万三千百九十四名、合格者総数は五千三百三十四名で合格率は四〇・四%だった。

本学の食物栄養学科管理栄養士専攻の今年三月卒業生は九十四名が受験し、全員合格した。

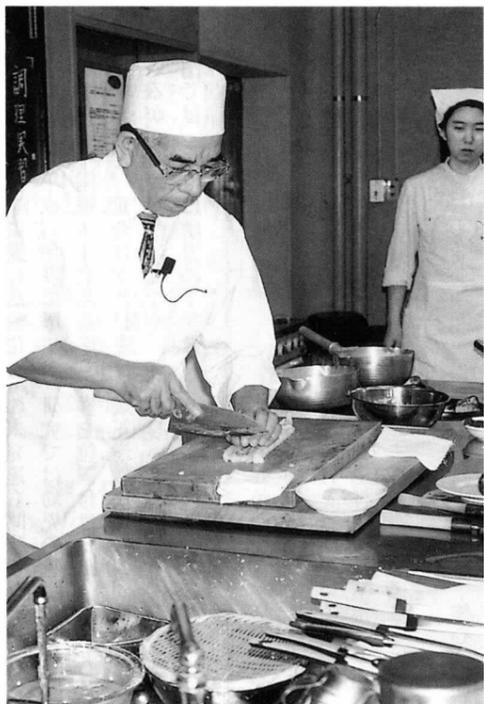
また、食物栄養学専攻では、今年三月卒業生九名を含め、二十三名が合格している。短期大学食物栄養科については、卒業後二年以上の実務経験を経て受験資格が得られるが、四十一名が合格している。合格者氏名は次のとおり。なお紙面の都合上、今年の卒業生のみを掲載する。(敬称略)

(食物栄養学専攻)
市村由紀・伊藤るみ・河村成美・角日菜子・高木暁子・富永悦子・原真由美・半田一代・渡邊範子
(管理栄養士専攻)
福田幸子・浅見かおり・有川陽子・石津康子・伊藤潤子・井上善絵・上田生子・上野友愛・内野ゆかり・江嶋美絵・大津祐子・上川規子・北嶋千恵・木下町子・久原葉

子・桑野理恵・小松志保・佐藤友美・佐矢野智子・志岐優子・島井里佳・鈴山佳子・多比良恵・高柳香苗・竹浦久美子・當房真巳・飛石典子・中川内環・中村仁美・夏秋みずほ・能塚尚子・畠山佳代子・林真由・原田智子・馬場美佳・平野恵子・福地由紀子・古谷一葉・松尾由美子・三井淳世・水谷桃子・宮崎敦子・宮崎美子・桃崎このみ・森内三恵・森田美子・矢野佳子・山本由美子・蘭明子・石川愛・石山純子・伊藤美樹・上田浩美・江頭祐子・大木雅代・奥本佳世・北崎薫・北村陽子・木村亜紀・倉本絵美・古賀史子・崔秀英・坂本あゆみ・佐藤奈美・椎葉泰子・渋谷聖・杉藤尚子・關屋三樹子・高夢聖子・瀧口恵・田中美紀・田畑友香里・戸川明子・中川友香・中路真由美・永廣美穂・西山美穂・野口裕子・濱田美鈴・葉山めぐみ・肥山恵子・福田恵美・福村淳子・瀨本くみ子・増田景子・丸井芳枝・水落紀子・峯由美子・宮本徳子・森陽子・森田知佳穂・山下かおり・吉田拓示・米満理恵

調理学実習特別講座を実施

—プロの料理人による料理示範(第1回)—



△ 日本料理の数々を披露する萩原氏

平成八年度から、食物栄養学科並びに食物栄養科の学生に対し、料理のプロによる調理学実習・特別講座を計画しました。これは、「調理すること」への関心を高めると共に、調理への心構えや技に直接接することによって、食領域に携わる者としての感性を養うことを目的としており、第一回は、平成八年六月十五日(土)萩原義治氏(元「とり市」総調理長)による日本料理「初夏の会席料理」を開催しました。

本料理の数々でした。萩原氏は、プロの料理人としての本格的な手法による料理を披露しながらも、基本的な包丁の動かし方などについても受講者に分かりやすく解説しながら示範されました。受講者は、食べる人の気持ちを大切に心を込めた料理の供し方、材料を無駄なく使う姿勢等、プロの心と技に触れることができ、深く感銘を受けていました。第一回を終え、学生の受講と熱心な受講態度を見ると、予想以上の成果を得ることができ、調理への関心もより高められたことと考えられます。次回の特別講座は西洋料理で、「ロイヤルパークホテル総料理長島村光夫氏による「最新フランス料理」で、多くの学生の期待が寄せられています。(文責 食物栄養学科・吉岡慶子)

もうすぐ学園祭

今年のテーマは
—「アドバンス—1歩といわず30歩
みんなで歩こう霜月祭」—

短期大学食物栄養科 2年
野口博文
(学園祭実行委員会)



△作業中のスタッフ

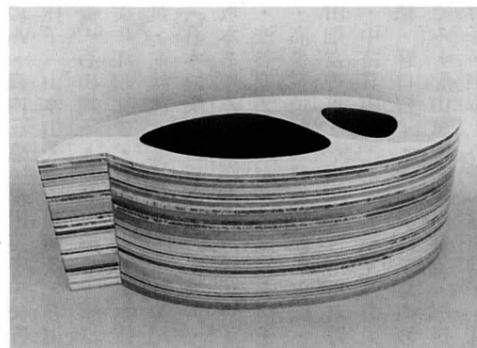
終日(三日)の後夜祭では、十三年間数々のヒット曲を出しつづけたチエッカーズの元メンバー藤井尚之のコンサートが目玉となります。昨年の「うらーぶ」というテーマを乗り越え、一歩でも多く前進して三日間の学園祭を充実したものにしようという準備を進めています。

今年の学園祭は十一月一日(金)から三日(日)までの三日間行われます。テーマは「アドバンス—1歩といわず30歩みんなで歩こう霜月祭」です。今年霜月祭が始まって三十周年ということもあり、スタッフ全員の意気込みをこのテーマに託しました。初日(一日)の前夜祭では、NDAの華麗なるダンスによるオーブニングセレモニーに続き、DJにJUNPEI TAKIGAWA、ゲストにELEMENTS OF VOGUEを迎えています。中日(二日)は、ミスキャンパスコンテストや他大学の学生も参加できる、集団お見合い。そして、最

倉園昭雄教授

新構造展で 努力賞受賞

本学、児童学科の倉園昭雄教授が、第六十八回新構造展に出品した「花器」―潮騒―と題された工芸作品で会員努力賞を受賞した。出品された作品は、素材に南方材ツキ板およびシナ合板をつかい、それを積層し改良木材とすることで、従来の木板の欠点である「狂い」を除去し、新しい素材の魅力を取り入れている。造形的には、全体のフォルムを舟形にイメージし、それをスライド、デフォルメ



することで動きと変化を与え、積層によるリズムミカルな直線文の美しさを表わし、花器の池は蛤形大小を配してまとめている。

古賀美子教授に 学術研究助成

―幼児の咀嚼と健康の 重要性を位置づけ―

食物栄養学科の古賀美子教授(代表)、太田英明教授(分担)らの研究に対して、助すかいらくフードサイエンス研究所の平成八年度研究助成が決定した。研究テーマは「咀嚼筋活動量を指標とした幼児における咀嚼知覚と食品物性との相関の解明」で、あさひ幼稚園の協力を得て、幼児の食物の咀嚼知覚と食品物性の関連を筋電図から調べようとするものである。

茶と禅



伊藤古鑑

「茶と禅」

学生課係長
梶原伸一

「茶禅一味」(茶と禅は一つである)は、時節来たりなば見性成佛(悟りを開くこと)せんといい私の思いである。「茶と禅」の眼目は、「茶禅一味」と禅語の解説である。この本を、読んで私が一番感動した事は、「茶禅一味」ということが禅の立場から解説されている点であった。このことが、現在私が行っている六つの修行が間違いでなかったという確信と自信につながった。

著者は「茶事は禅道を宗とする事」といって、茶道の根元を示し―中略―自分のころをみがくためであり、自分の本心本性を悟るものであると述べている。

私は五年前から本格的に茶道および禅の修行を始め、現在六つの修行を行っている。

(一)坐禅三昧(精神を坐禅に集中して雑念を去ること)の修行。

(二)動中の工夫―無心、無我の茶の心で仕事を一生懸命・精一杯することである。即ち、仕事即禅、生活即禅である。

(三)心の修行―自他共に生きるという精神、即ち正しい人間関係の為の修行である。

(四)茶道の修行―茶の心の探究、千利休のいう「和敬清寂」(和は和して互いに茶事を楽しむ。敬は自己を慎しみ、他人・物を尊敬する。清は清浄無垢だけでなく、「円虚清浄の一心」から自由に働くこと。寂は寂然不動の心境)の心の探究と修行「平常心は道」(何ともない心から当り前のことを当り前にやる、それが大道である)の修行。

(五)自己修行―自己を知り、自己の本性を自覚する為の修行。

(六)人間修行―立派な正師(仏道を実践するまことの師)に師事し、体験を通じての人格形成の為の修行である。

「食は医なり」が

本に…



本学大学院栄養科学研究所と食物栄養学科の教員十三名がそれぞれの立場から執筆し、西日本新聞に連載された「食は医なり」がこのたび一冊の本として刊行された。これは、連載中から読者の好評を博し、シリーズ終了後、ぜひ単行本として刊行してほしいとの要望が多かったため、「クスリより大事な食べ物の話 食は医なり」という題名で、からだの仕組みに始まり、最近注目を集めている、肥満、糖尿病、高血圧と食事の関係や、食事と癌との関係、

また骨粗しょう症、鉄欠乏性貧血など日常生活でよく耳にする問題について、本文の他、料理のカラー写真も数多く掲載し、わかりやすく解説されている。

グルメ、ファーストフードなど日本人の食生活が大きく変化している一方で、成人病と呼ばれる疾患が小児期から見られるようになった今日、食事と病気との関係を理解するとともに、健康な生活を送るためにはどのような食生活が必要なのかを知る上でも貴重な一冊といえる。(A五判、本文一七九頁、カラー口絵二〇頁、定価一五〇〇円、発行所・西日本新聞社、本学売店にて販売中)

<Spot News>

第二学生ホールが リフレッシュ

第二学生食堂として新装オープン期間行われ、九月二十日から利用規模四百食の学生食堂としてオープンした。メニューにはランチ類だけでなくサンドイッチ、散らしや好み焼きも登場。小鉢等の単品コーナーも充実しており、学生に好評である。また、昼食時の混雑解消のため、支払い方法がプリペイドカードによる後レジ方式となったのも大きな特徴である。



なお、この第二学生食堂のオープニングにより、第一学生ホールの食堂は種類主体のメニューに切り替わった。西一号館の喫茶室は従来の営業を続けている。

男女ともに世界チャンピオンを輩出している、福岡大学空手部を指導している、本学食物栄養学科今村裕行講師は専門分野の運動生理学的立場からユニークな指導を行っている。空手などの格闘技で力を発揮するには、相手に攻撃的に向かっていく気力を促進する男性ホルモンを高めていく必要があるが、男性ホルモンはストレスに弱く、常に強いストレスを伴った厳しい練習だけでは男性ホルモンの働きを妨げてしまう。

「勝つための科学」を研究
(食物栄養学科)
今村 裕行 講師

手の和を大切にするとともに、ストレッチを有効に利用したウェイトトレーニングによる筋力のパワーアップや、食物栄養学科城田知子教授とのグループによる、筋力増強に不可欠な栄養指導を含めた総合的に選手を指導している。

こうした研究成果は、昨年行われたユニバーシアード福岡大会開催中の大学スポーツ研究会でも発表された。

現在も、数多くのデータを集めながら、如何にしたら選手が勝てるのかという視点に立った研究が続いている。

教職員の動き

▼退職

(平成八年五月三十一日付)
学生課長 久保田義昭

▼昇任・昇格・配置換等

(平成八年六月一日付)
教務課長 村田 勝(広報室室長)
広報室室長 坂口浩隆(広報室係長)
学生課長 矢野良幸(教務課長)

▼新任(平成八年七月一日付)

広報室係長 小川康生(学生課係長)
情報処 理 塚本富一郎
センター課員 (平成八年十月一日付)
学生課課員 大川貴光

- 久富さよ子 助教授
①台湾 (H 8・7/22~8/10)
②静宜大学の視察、保育所の見学、台湾における伝統的音楽文化の調査
- 西岡 弘晃 教授
①中国 (H 8・8/15~8/22)
②'96中国水利史研究国際学会研究発表
- 古賀 信幸 助教授
①オランダ (H 8・8/11~8/18)
②国際学会「Dioxin '96」研究発表
- 山根 一文 助教授
古賀 範雄 助教授
①オーストラリア (H 8・8/4~8/28)
②「英語・文化海外研修」引率
- 荘田美樹子 講師
①イギリス (H 8・8/7~8/19)
②イギリス・ランカスター大学における TALC 96学会出席及びバンタベリー・クライスト・チャーチ大学のサマースクールで英語教育に関して視察・意見交換
- 中谷 安男 講師
①ロシア (H 8・10/31~11/9)
②ロシア連邦文部省、民族関係省共催教育文化国際シンポジウム研究発表
- 権藤典志夫 教授
①タイ・マレーシア (H 8・8/18~8/31)
②卒業論文指導学生5名とバンコクを訪問、研究活動及び価値調査の研究活動
- 波平 元辰 教授
①チリ共和国 (H 8・8/12~8/20)
②食生態調査
- 太田 英明 教授
①ニュージーランド (H 8・8/3~8/12)
②ポストハーベストサイエンス第4回国際会議において研究発表
- 林 辰美 助教授
①スウェーデン (H 8・8/17~8/29)
②スウェーデン基礎学校の健康教育および栄養教育の視察と資料収集

海外出張の記録

〔氏名・職名①訪問国・期間〕
②目的

- 波平 元辰 教授
①中国 (H 8・6/17~6/20)
②上海中医薬大学表敬訪問
- 楠 喜久枝 教授
①香港 (H 8・6/17~6/20)
②全国柿の葉大会全国セミナー出席
- 古賀美子 教授
①タイ (H 8・7/21~7/28)
②第18回国際家政学会出席
- 鶴田 八郎 助教授
①オーストラリア (H 8・6/29~7/4)
②第7回テッスルオーストラリア学会出席
- 権藤典志夫 教授
①オーストラリア (H 8・6/30~7/7)
②第9回世界比較教育学会研究発表
- 原 孝之 助教授
①アメリカ (H 8・7/20~7/26)
②第11回ミクロゾームと薬物酸化国際シンポジウム研究発表
- 鶴田 八郎 助教授
①ニュージーランド (H 8・9/15~9/23)
②Fifth National Conference on Community languages and English For Speakers of Other Languages 研究発表
- 伊藤 和枝 教授
①ネパール (H 8・8/8~9/15)
②「ネパールにおける高血圧発症要因の比較研究」10年後の追跡調査
- 廣畑 富雄 教授
①イギリス (H 8・7/8~7/19)
②食物・栄養とガンに関する第6回エキスパートパネル会議出席及び英国の公衆衛生・疫学の教育・研究視察



△公開講座から (本文 4 頁に掲載)